

青森県立高等学校教育改革推進計画

第2期実施計画（案）に関する

西北地区懇談会

青森県教育委員会

高等学校教育改革推進室

本日の目的

- 第2期実施計画（案）の概要についてご説明し、県民の皆様から幅広くご意見をいただくこと
- 今後のスケジュールについてご理解いただくこと

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

1 県立高校教育改革の背景

○ 社会の急速な変化

グローバル化・情報通信技術の進展、少子高齢化の進行等

○ 高校教育を巡る環境の変化

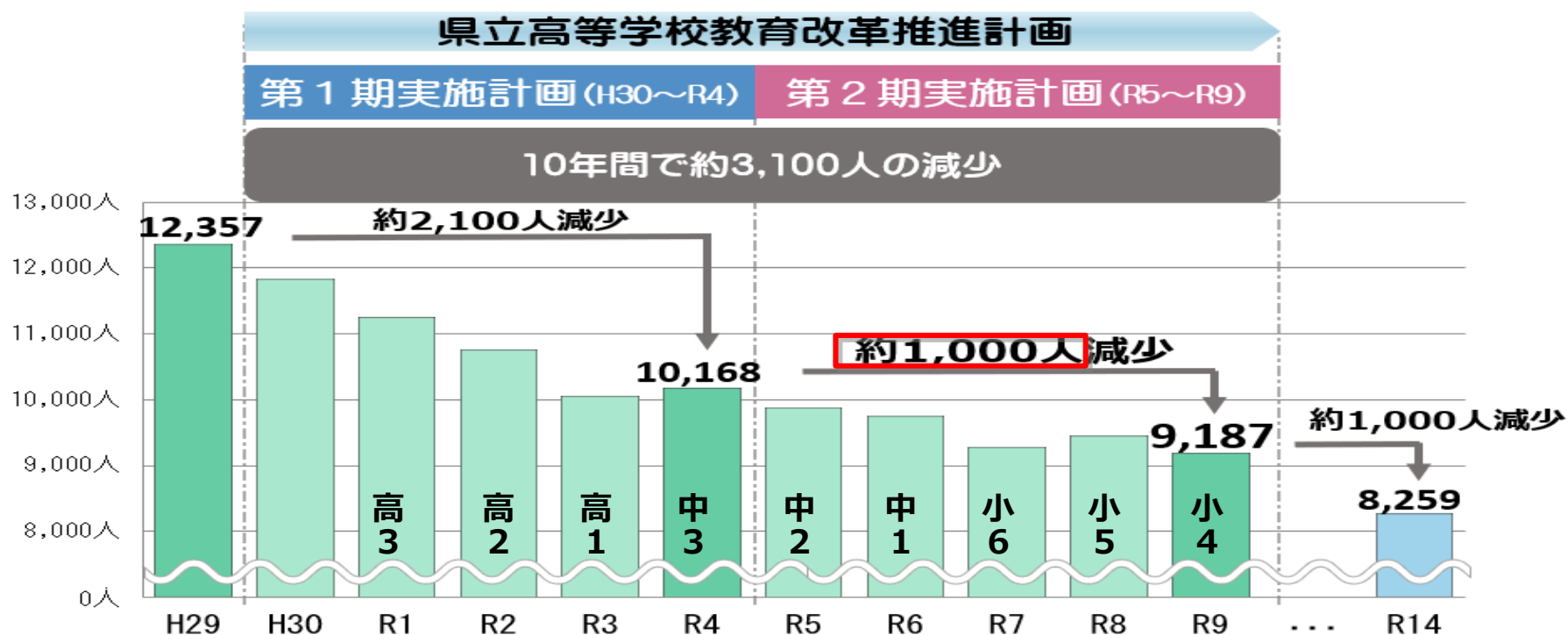
学習指導要領改訂、成年年齢18歳へ引き下げ等

○ 進路志望等の多様化

高校等進学率99%

○ 県全体の中学校卒業予定者数の減少

第2期実施計画期間中に約1,000人減少



※図中の学年は令和3年度時点の学年を示す

1 県立高校教育改革の背景

【目的】

生徒が減少する中であっても、生徒一人一人がこれからの時代に求められる力を身に付け、本県の未来を担う人財[※]として成長することのできる高校教育を目指す。

① これからの時代に求められる力

生きる力

確かな学力

豊かな心

健やかな体



本県が重視する力

たくましい心

学校から社会への円滑な移行に必要な力

郷土に誇りを抱き、青森県の未来を力強く
支えようとする心

② 各高校の特色を生かした人財の育成

地域を支える
人財

社会をけん引
する人財

産業の発展に貢献
する人財

※ 「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」等では「人は青森県にとっての『財（たから）』である」という基本的考えから、「人材」を「人財」と表記している

本日の説明内容

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

第2期実施計画策定の経緯

青森県立高等学校
将来構想検討会議

平成28年1月答申

・県民の意見
〔意見募集、地区懇談会〕

基本方針 (H30からおおむね10年間)
(平成28年8月策定)

・県民の意見
〔パブリック・コメント、地区懇談会〕

第1期実施計画 (H30~R4)
(平成29年7月策定)

・県民の意見
〔各地区3回の地区意見交換会
パブリック・コメント、地区懇談会〕

基本方針改定
(有識者による検証会議を経て令和2年8月改定)

・県民の意見
〔パブリック・コメント、地区懇談会〕

第2期実施計画 (R5~R9)
(令和3年10月策定予定)

・県民の意見
〔各地区3回の地区意見交換会
パブリック・コメント、地区懇談会〕

青森県立高等学校
教育改革推進計画

県立高校教育改革推進計画の構成と策定・推進の考え方

県立高校教育改革に関する基本的な考え方 (H30からおおむね10年間)

基本方針 (改定前)

基本方針 (改定後)

H30

R5

R9

第1期実施計画 (H30~R4)

学科改編や地区ごとの具体的な学校規模・配置等

第2期実施計画 (R5~R9)

【第2期実施計画策定・推進の考え方】

- 充実した教育環境の整備と各地域の実情への配慮
- 生徒の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための魅力ある高校づくりの更なる推進

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

1 全ての高校に共通して求められる教育環境

カリキュラム・マネジメントの適切な実施

〈県教育委員会〉

スクール・ミッション（各校に求められる役割や目指すべき学校像等）の明確化

〈高校〉

スクール・ポリシー（一貫性を持って教育活動を進めるための具体的な方針）を策定

〈高校〉

教育活動の充実を図る**カリキュラム・マネジメント**を適切に実施

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力・学びに向かう力・人間性等を育成
- STEAM教育の視点を取り入れながら、**探究的な学びを重視した教育活動**を展開
- 主体的・対話的で深い学びの実現等に向けた教員研修を充実

社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度の育成

- 小・中学校におけるキャリア教育の成果を受け継ぎながら、**教育活動全体を通じたキャリア教育**を推進
- 地域・企業等と連携したインターンシップや、大学等と連携したアカデミック・インターンシップ等を充実

2 全日制課程

(1) 普通科等※の充実 ※ 普通、理数、スポーツ科学、外国語、表現の各学科

各校の教育環境の充実

- 各校が連携しながら、大学等への進学や就職等の幅広い進路志望に対応
- 科学技術分野、スポーツ分野、国際分野、文化芸術分野等、様々な分野で活躍できる人財の育成に向け、地域の実情に応じた教育活動や各校の特色を生かした取組を推進

重点校と各校の連携による取組

- **探究活動等の特色ある教育活動の中核的役割を担う高校を重点校として配置し、県全体の普通科等における教育の質を確保・向上**
- 重点校が実施する探究活動に係る研究会等に各校の生徒が参加するとともに、学習成果の共有に向けた生徒同士の交流等の連携を推進
- 重点校と各校の円滑な連携に向けた体制を整備

【重点校の配置】

東青地区	西北地区	中南地区	上北地区	下北地区	三八地区
青森高校	五所川原高校	弘前高校	三本木高校	田名部高校	八戸高校

【重点校における連携のイメージ】



【重点校と各校との連携の例】

五所川原高校：大学進学情報の提供

日 程：随時

場 所：五所川原高校

提供先：進学情報の提供を希望する高校の教員 1 2 名

大学進学情報の提供は、五所川原高校が収集してきた大学入試に係る最新の情報や指導のノウハウ等を提供し、連携する高校における大学進学を希望する生徒の進路志望の実現に資するもの。また、教員同士の情報共有を通して、指導力向上にもつなげるもの

普通科、理数科、スポーツ科学科、外国語科、表現科

■ 普通科 (普通科を設置する高校)

- 現代社会を巡る複雑な課題や地域社会の課題等に対応するために必要な資質・能力の育成に向け、各校の実情に応じた探究活動を推進

■ 理数科 (五所川原高校)

- 科学的能力や科学的思考力を育成するための特色ある教育活動を推進

■ スポーツ科学科 (青森北高校、弘前実業高校、八戸西高校)

- 豊かなスポーツライフを実現できる力を育成するための特色ある教育活動を推進

■ 外国語科 (青森南高校) ⇒ **グローバル探究科**に改編

- これまでの学習内容を発展的に見直し、外国語科を**グローバル探究科**に改編
- グローバル探究科では、**国際バカロレアの理念に基づき、語学力だけでなく、幅広い教養、課題を発見し解決する能力等を身に付けられる学習を充実**
- SDGsの実現等に着眼した**探究活動に国内外の学校等と協働しながら取り組むなど、特色ある教育活動を推進**

■ 表現科 (八戸東高校)

- 豊かな情操と創造性を育成するための特色ある教育活動を推進

(2) 職業教育を主とする専門学科※の充実 ※ 農業、工業、商業、水産、家庭、看護の各学科

各校の教育環境の充実

- 基礎的・基本的な知識・技能に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力を育成
- 大学等との接続を視野に入れた取組や地域・企業等と連携・協力した取組を推進

拠点校と各校の連携による取組

- 農業科・工業科・商業科において、**学習の拠点としての役割を担う高校を拠点校として配置し、**県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質を確保・向上
- 拠点校が実施する資格取得講習会等に各校の生徒が参加するとともに、各学科間の横断的な共同研究や学習成果の共有に向けた生徒同士の交流等の連携を推進
- 拠点校と各校の円滑な連携に向けた体制を整備

【拠点校の配置】

農業科	工業科	商業科
五所川原農林高校 三本木農業恵拓高校	青森工業高校 弘前工業高校 八戸工業高校	青森商業高校

【拠点校（農業科）における連携のイメージ】



【拠点校と各校との連携の例】

五所川原農林高校：グローバルGAP認証※取得支援

日程：令和2年8月4日

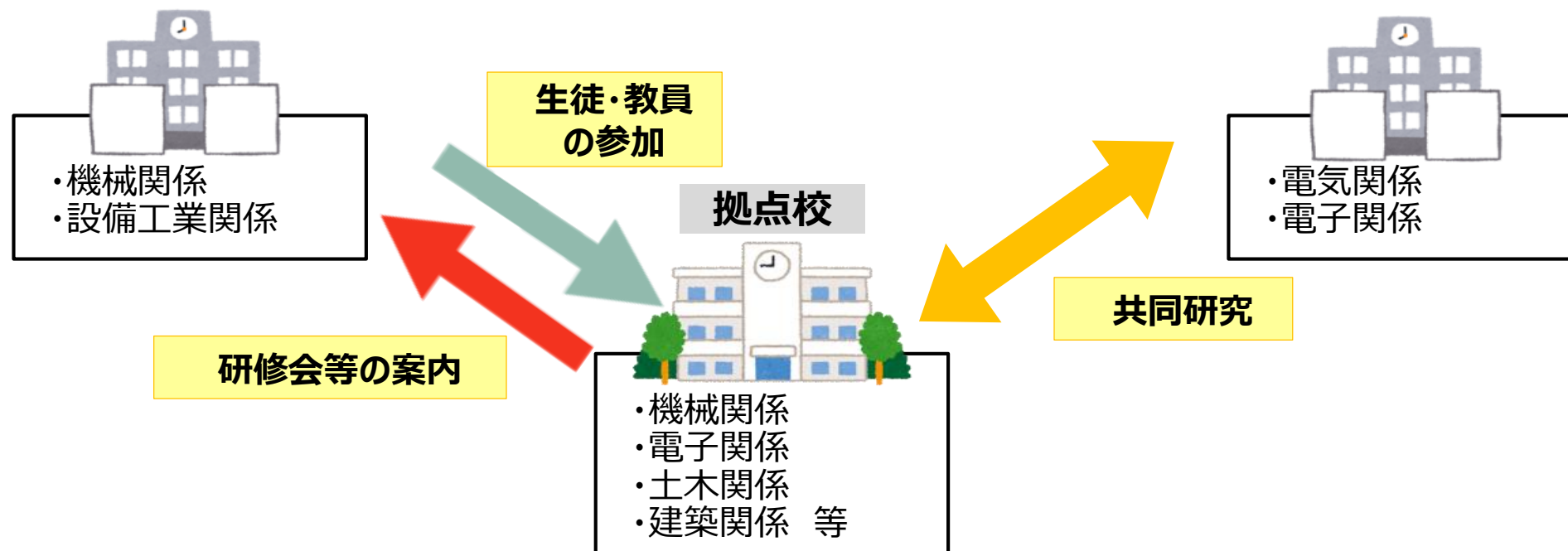
場所：柏木農業高校

参加：五所川原農林高校、柏木農業高校の2校から生徒21名

グローバルGAP認証取得支援は、認証に向けたノウハウを持っている五所川原農林高校の生徒が柏木農業高校を訪問し、取組状況の実践発表等の支援を行うことで、柏木農業高校が認証取得を目指すもの

※グローバルGAP認証：農作物が安全であることを示す国際認証規格

【拠点校（工業科）における連携のイメージ】



【拠点校と各校との連携の例】

弘前工業高校：上級学校の研究発表会の見学

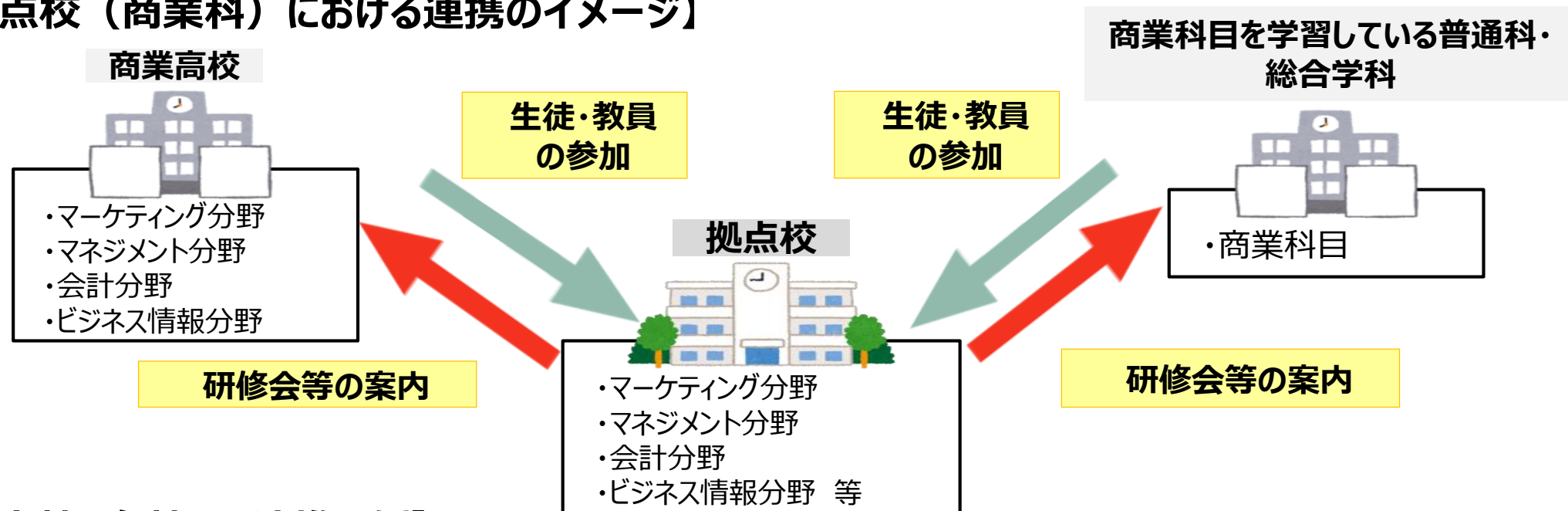
日 程：令和元年12月17日

場 所：東北職業能力開発大学校青森校

参 加：弘前工業高校、五所川原工業高校の2校から生徒70名

上級学校の研究発表会の見学は、工業高校の生徒が東北職業能力開発大学校青森校における実践的な工業技術に関する研究発表を見学することで、3年次の課題研究テーマ選定の参考とするとともに、研究の進め方について学び、学習意欲を高めることを目指すもの

【拠点校（商業科）における連携のイメージ】



【拠点校と各校との連携の例】

青森商業高校：県内IT企業による出前授業

日 程：令和2年6月上旬～3年2月下旬

場 所：商業科を設置する各校

参 加：青森商業高校、弘前実業高校、黒石商業高校、三沢商業高校、八戸商業高校の5校から生徒233名

県内IT企業による出前授業は、地元IT企業と各校が連携し、課題研究やビジネス情報分野に属する科目等における学習内容を深める講義や演習を行い、青森商業高校が各校の取組内容を取りまとめて情報共有することで、実践力を身に付けたIT人財の育成を目指すもの

農業科

■ 農業科 (五所川原農林高校、柏木農業高校、三本木農業恵拓高校、名久井農業高校)

○ これからの農業に必要な資質・能力を育成するための特色ある教育活動を推進

・五所川原農林高校

- 森林科学科と環境土木科を統合して**環境科学科に改編**
- 環境科学科では、**森林の構造・機能・育成、農業土木、環境保全等に関する学習を充実**

・柏木農業高校

- 生活科学科を**生物生産科に統合**
- 生物生産科では、**農業生産や農業経営等に加え、地域資源の活用に関する学習を充実**

学校名	R 4	R 5～R 9
五所川原農林	生物生産	変更なし
	森林科学	環境科学
	環境土木	
	食品科学	変更なし
柏木農業	生物生産	生物生産
	生活科学	
	環境工学	変更なし
	食品科学	

工業科

■ **工業科** (青森工業高校、五所川原工科高校、弘前工業高校、十和田工業高校、
むつ工業高校 (下北地区統合校)、八戸工業高校)

○ 産業社会に求められる変化に対応できる資質・能力を育成するための特色ある教育活動を推進

・むつ工業高校 (下北地区統合校)

- 電気科と設備・エネルギー科を統合して**電気・エネルギー科に改編**
- 電気・エネルギー科では、**発電や送電、電気配線工事、エネルギー等に関する学習を充実**

学校名	R 4	R 5～R 9
むつ工業 (下北地区統合校)	機 械	変更なし
	電 気	
	設備・ エネルギー	電気・ エネルギー

商業科、水産科、家庭科、看護科

■ 商業科 (青森商業高校、黒石高校、弘前実業高校、三沢商業高校、八戸商業高校)

- 経済社会の要請に対応できる資質・能力を育成するための特色ある教育活動を推進

■ 水産科 (八戸水産高校)

- 水産業を取り巻く状況変化に対応できる資質・能力を育成するための特色ある教育活動を推進
- 専攻科においては、専門性の高い実践的な教育活動を推進

■ 家庭科 (弘前実業高校、百石高校)

- 生活文化の変化に対応できる資質・能力を育成するための特色ある教育活動を推進

■ 看護科 (黒石高校)

- 医療を取り巻く社会環境の変化に対応できる資質・能力を育成するため、専攻科と一体となった5年間一貫した専門性の高い実践的な教育活動を推進

(3) 総合学科の充実

各校の教育環境の充実 (青森中央高校、木造高校、七戸高校、大湊高校 (下北地区統合校))

- 自身の個性を発見させるとともに、自己の在り方・生き方を考察させることにより、将来を見据えた主体的な系列選択を促進
- 外部講師の積極的な活用や、各系列の連携による教育活動等を進め、生徒の幅広い進路志望に対応
- 生徒数の減少や生徒の学習ニーズに対応するため、地域の実情等を踏まえながら系列の在り方について各校と検討・見直し

(4) 多様な教育制度の充実

併設型中高一貫教育 (三本木高校・三本木高校附属中学校)

- 高校と附属中学校の教員の交流による双方の授業改善
- 6年間を見通した計画的・継続的な教育活動の更なる充実
- 異年齢交流を通して、社会性や豊かな人間性を育成

全日制普通科単位制 (青森東高校、弘前南高校、田名部高校、八戸北高校)

- 幅広い選択科目や学校設定科目を開設するとともに、少人数できめ細かな指導等の指導体制の工夫・改善により個に応じた指導を充実
- 学校外の学修や体験活動等における成果の単位認定を通して、生徒の学習意欲を向上

総合選択制 (弘前実業高校)

- 所属する学科の科目に加え、他学科の科目を学習することを通して、幅広い知識や柔軟な発想を身に付けられる取組を充実
- 異なる専門性や価値観を有する各学科の生徒が学び合うことにより、新たな価値を創出するために必要な力を養成

3 定時制課程・通信制課程

定時制課程の充実 (北斗高校、五所川原高校、尾上総合高校、三沢高校、田名部高校、八戸中央高校)

- 様々な事情を抱える生徒に対応するため、家庭・地域等と連携しながら、生徒一人一人に寄り添った指導や支援を実施
- スクールライフサポーター等、**専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制を整備**

通信制課程の充実 (北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校)

- 生徒の多様な学習ニーズ等に対応できるよう、**ICTを活用**することにより、**時間や場所の制約を超えて学習・相談できる体制を構築**
- 高校入学後の進路変更を希望する生徒に対し、**後期入学や年度中途からの転入学・編入学の実施**を通して、幅広く学びの機会を提供

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

計画的な学校規模・配置に当たっての観点

高校教育を受ける
機会の確保

【各地区における中学生の進路の選択肢の確保】

幅広い進路選択に
対応する高校

選抜性の高い大学への
進学に対応する高校

実践的な職業教育に
対応する高校

【通学環境への配慮】

地理的な要因から高校への通学が困難な地域が新たに生じないように配慮

充実した
教育環境の整備

《学校規模の標準》

(基本となる学校)

1 学年当たり 4 学級 (160人) 以上

(普通科等の重点校)

1 学年当たり 6 学級 (240人) 以上

(職業教育を主とする専門学科の拠点校)

一つの専門学科で

1 学年当たり 4 学級 (160人) 以上

◆一定の学校規模を維持することにより、本県高校教育全体の質の確保・向上

※

※ 1 学年当たり 4 学級 (160人) … 1 学級の定員を 35 人とする学級編制の弾力化を実施している学校にあっては 140 人以上

学校規模による科目の開設状況の違い

学校規模	社会科平均開設科目数	理科平均開設科目数
1 学級規模	5. 0 科目	5. 0 科目
2 ~ 3 学級規模	5. 2 科目	6. 2 科目
4 ~ 5 学級規模	7. 5 科目	8. 5 科目
6 ~ 7 学級規模	9. 0 科目	9. 2 科目

学校規模が大きくなるほど、**社会科や理科において幅広い科目を開設**することができる

学校規模による部活動設置状況の違い

学校規模	運動部活動数平均	文化部活動数平均
1 学級規模	5. 5部	4. 0部
2～3 学級規模	6. 7部	4. 5部
4～5 学級規模	13. 5部	10. 0部
6～7 学級規模	14. 8部	11. 2部

学校規模が大きくなるほど、運動部・文化部ともに**部活動の設置数を増やす**ことができる

学校配置の考え方

- ① 学校規模の標準を踏まえ、6地区ごとに中学校卒業生数の推移、中学生のニーズ等に対応した**計画的な学校配置**
- ② 生徒にとって**必要な学科の選択肢を確保**するため、異なる学科の高校の統合による**複数の学科を有する高校の設置**を検討
- ③ **公共交通機関の利便性等**を考慮
- ④ **重点校を各地区に配置し、農業科・工業科・商業科の拠点校を全県的なバランスを考慮して配置**
- ⑤ 学校規模の標準を満たさない高校のうち、**募集停止等により高校への通学が困難な地域が新たに生じることとなる高校**については、**地域における通学状況を考慮した上で地域校として配置**

地域校への対応

【地域校の配置】

地区	東青	西北	中南	上北	下北	三八
地域校	—	鱒ヶ沢高校	—	六ヶ所高校	大間高校	三戸高校

【基本方針に定める基準等】

〈2学級規模の地域校〉

- 40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模として配置

〈1学級規模の地域校〉

- 募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満（20人未満）となった場合、翌年度の募集停止を基本とし、当該高校の所在する市町村等と協議

【地域校の活性化に向けた対応】

- 地域校の活性化に向け、学校関係者と市町村関係者等で構成する地域校活性化協議会（仮称）における協議結果等を踏まえ、地域等と連携・協力しながら、学校と地域等が一体となって教育環境の充実に資する取組を実施

西北地区における中学校卒業生数・募集学級数の推移（見込み）

(単位：人・学級)

	第1期	第2期実施計画					R10~R14
	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 14
中学校 卒業生数	985	940	963	866	871	824	752
前年比較	-	△45	23	△97	5	△47	-
期間内増減	△373	△161					△72
募集学級数	19	16~17					14~15
期間内増減	△8	△2~△3					△2

地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応することから、募集学級数は幅を設けて示している

地区意見交換会の委員の意見に基づく学校配置シミュレーション

ア 全ての学校を配置する場合

西北地区における学校規模・配置

重点校・拠点校・地域校について

○ 以下のとおり、重点校・拠点校・地域校を配置

重点校	農業科の拠点校	地域校
五所川原高校	五所川原農林高校	鱒ヶ沢高校

学級減について

○ 地区の普通科等、職業教育を主とする専門学科、総合学科の選択肢を確保するとともに、中学校卒業生数、志願・入学状況等を考慮し、学校規模の標準を踏まえ、以下の学校において学級減を実施

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第1期	第2期実施計画	
		R4	R5～R9	期間内増減
木造高校	総合	4	3	△1
五所川原農林高校	農業	4	3	△1

西北地区における各校の学校規模(P19)

(単位：学級)

学校・学科		年度・学級数等	第1期	第2期実施計画		備 考
			R 4	R 5～R 9	期間内増減	
五所川原	普通		4	4		・重点校
	理数		1	1		
木造	総合		4	3	△ 1	
鱒ヶ沢	普通		1	1		・地域校
五所川原工科	普通		2	2		
	機械		1	1		
	電子機械		1	1		
	電気		1	1		
五所川原農林	生物生産		1	1		・拠点校 ・森林科学科と環境土木科を統合し、環境科学科に改編
	環境科学		—	1	+ 1	
	森林科学		1	0	△ 1	
	環境土木		1	0	△ 1	
	食品科学		1	1		
地区計			19	17	△ 2	

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

1 学校・家庭・地域等との連携の推進

各校種等との連携の推進

- 生徒の進路志望等の多様化や小規模校における課題に対応するため、教員研修や学校行事等において、各校が相互に連携・協力した取組等を推進
- 小・中学校と連携し、高校の学びに触れる機会の提供や各発達段階に応じた教育活動を充実
- **国内外の高校や大学等と連携した共同事業体（コンソーシアム）の構築等**により、グローバルな社会課題に係る探究活動や大学レベルの教育・研究に取り組むなど、生徒の進路志望に応じた高度な学びを提供

家庭・地域等との連携の推進

- 社会に開かれた教育課程の理念の下、学校・家庭・地域が一体となり、生徒一人一人にこれからの時代に求められる力を育成
- **コミュニティ・スクール**導入校における成果や課題の検証を踏まえ、**他校においても段階的な取組を実施**
- 総合的な探究の時間や学校設定科目等において、地域への理解を深める学習である「**あおもり創造学**」を進め、「ふるさとあおもり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲を醸成

2 教育活動の充実に向けた取組

各校に関する情報発信の充実

- 中学生の進路選択等に資するよう、**各校の特色を生かした魅力ある教育活動等について**、様々な広報媒体を活用しながら、**情報発信を充実**

特別な支援を必要とする生徒等への対応

- 校内研修の充実や特別支援学校と連携した教員研修等の推進による生徒の実情に応じた支援
- 北斗高校、尾上総合高校、八戸中央高校の定時制課程において実施している**通級による指導**の成果を踏まえ、**他校への拡充等を検討**
- **専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制の整備等**により、様々な事情を抱えた生徒へ対応
- 不登校の生徒等に対する支援として、ICTを活用した学習活動等を実施

ICTの活用による教育活動の充実

- 生徒一人一人に情報活用能力を育成するため充実したICT環境を提供
- 学習場面に応じて効果的に**ICTを取り入れた授業づくり**を推進
- ICTの特性を生かした教育活動の展開に向けた実践的な教員研修を充実

施設・設備の充実

- 老朽化の解消等により**安全・安心な教育環境を確保**
- 特色ある教育活動等に向けた計画的な施設・設備の整備

全国からの生徒募集の導入 (目的・導入校の決定方法)

【目的】

県外から目標を持った生徒を受け入れ、近年、入学者数が募集人員に満たない高校の活性化を進めるため、高校が所在する市町村の意向等を踏まえながら全国からの生徒募集を導入

【導入校の決定方法】

以下のいずれかに該当する高校 (候補校) のうち、高校が所在する市町村から支援を前提とする申し出があった高校について、県教育委員会と市町村が協議した上で導入校として決定

【候補校】

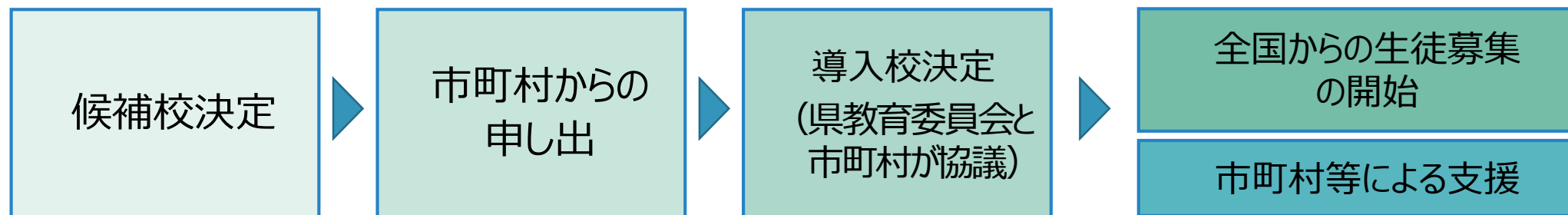
① 第2期実施計画において地域校とする高校

(鰯ヶ沢高校、六ヶ所高校、大間高校、三戸高校)

② 過去5年の定員充足率の平均が90%以下の高校 (第2期実施計画における統合対象校を除く)

(柏木農業高校、野辺地高校、七戸高校、名久井農業高校)

全国からの生徒募集の導入（開始までの流れ）



- 全国からの生徒募集は**令和5年度入学者選抜からの導入**（令和5年度から県外生徒受入れ）を**基本**
- 県外生徒の生活環境の確保等の準備期間を要する導入校については令和6年度入学者選抜から導入

1 県立高校教育改革の背景

2 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

第1 第2期実施計画策定の経緯

第2 学校・学科の充実

第3 学校規模・配置

第4 魅力ある高校づくり

第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進

3 今後のスケジュール

教育環境の充実を図り、人口減少克服に向けて生徒一人一人に郷土を愛する心を育むため、学校と地域等が一体となり、県全体が一丸となって高校生を育てる教育に取り組むとともに、次のような取組を進めるなど、県民の理解と協力の下で県立高校教育改革を推進

1 青森県立高等学校教育改革推進計画の進捗管理

- 高校教育を巡る環境の変化や中学校卒業生数の見込み、生徒の志願・入学状況等を確認の上、第2期実施計画の取組状況について検証し、必要に応じて実施計画を見直し

2 次期実施計画の策定

- 令和10年度以降を計画期間とする次期実施計画の策定に当たっては、県民の皆様からご意見を伺う機会を設けながら、新たな時代を主体的に切り拓く子どもたちを育むための高校教育の在り方を検討

- 1 県立高校教育改革の背景
- 2 青森県立高校教育改革推進計画第2期実施計画(案)
 - 第1 第2期実施計画策定の経緯
 - 第2 学校・学科の充実
 - 第3 学校規模・配置
 - 第4 魅力ある高校づくり
 - 第5 県民の理解と協力の下での県立高校教育改革の推進
- 3 今後のスケジュール

第2期実施計画（案）公表
（令和3年7月）



第2期実施計画 決定
（令和3年10月予定）



第2期実施計画開始
（令和5年度～）

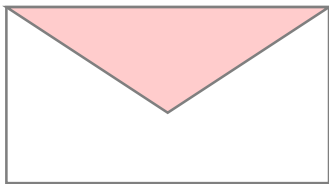
・県民の意見

（
パブリック・コメント
地区懇談会
）



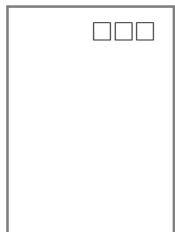
第2期実施計画（案）に関するパブリック・コメントを実施中です

＜パブリック・コメント受付期間：8月16日（月）まで＞



これから高校に入学するお子さんたちに直接かかわることです。
ぜひ、皆様のご意見をお聞かせください！

【メール】E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp



【郵便】〒030-8540 青森市長島1-1-1
青森県教育庁高等学校教育改革推進室

【FAX】017-734-8003

詳しくは、検索

青森県立高等学校教育改革

検索 



【ホームページ】 <https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/kenritukoutougakkoukyouikukaikaku.html>